

経営比較分析表（平成28年度決算）

兵庫県 養父市

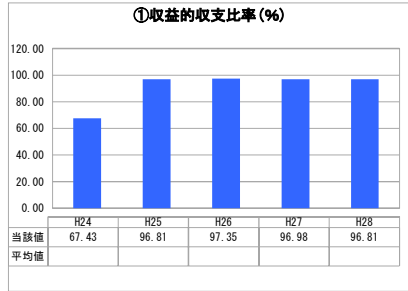
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	24.65	85.56	3,680

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
24,778	422.91	58.59
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,052	2.09	2,895.69

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



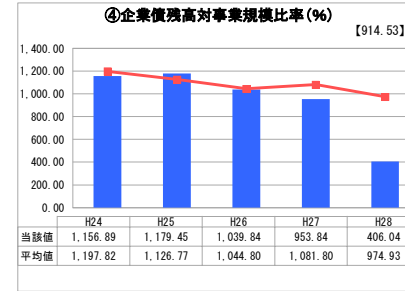
「単年度の収支」



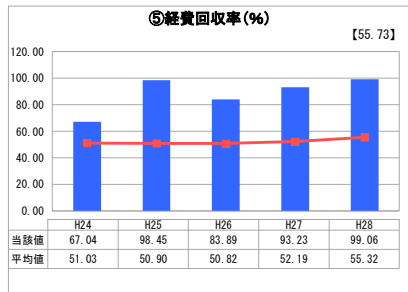
「累積欠損」



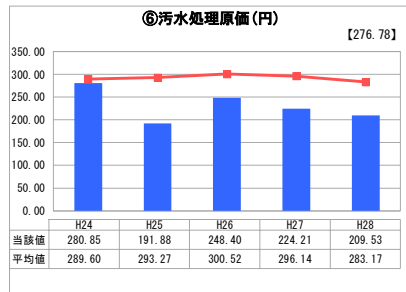
「支払能力」



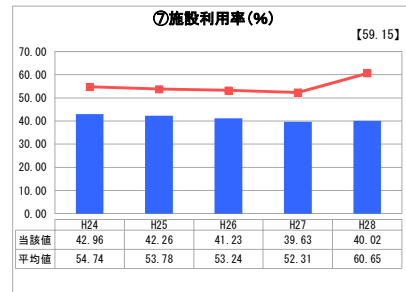
「債務残高」



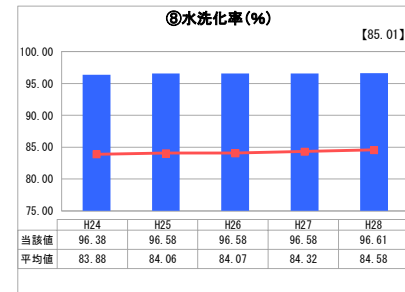
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

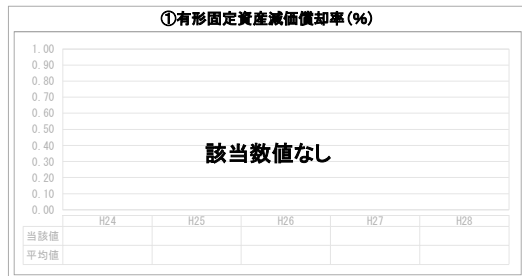


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

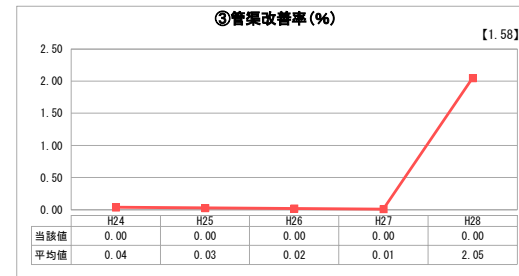
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【単年度の収支】
収益的収支比率は、平成24年度に大きく数値を下げていますが、繰上償還に伴う補償金の支出によるもので、平成25年度以降は100%を少し下回る値で推移し、良好な経営状況であるといえる。

【債務残高】
企業債残高対事業規模比率は、施設整備は完了しており、償還が進み年々減少している。しかし、今後実施予定の長寿命化対策や統廃合事業の影響により、再度上昇することが予想されるため、適正な投資規模を検討し債務残高の増加を最小限に抑えていく。

【料金水準の適切性】
経費回収率は、類似団体平均値及び全国平均値を上回っており、100%をわずかに下回っている状況で推移しており、概ね適正な料金水準であるといえる。

【費用の効率性】
汚水処理原価は、類似団体平均値及び全国平均値を下回っている状況が続いている。当該事業は施設整備が比較的新しく、修繕等の経費が抑えられていることが要因であると考えられる。今後は、施設老朽化により修繕等の経費が増加していくことが想定され、当該数値の上昇を抑えるため今以上に経費削減に努める。

【施設の効率性】
施設利用率は、人口減少が進んでいるため、年々低下し、類似団体平均値を下回る状況が続いている。今後は施設の統廃合等を検討して、施設の効率的な運営を行う。

【使用料対象の捕捉】
水洗化率は、過去5年間類似団体平均値を大きく上回っている状況である。区域内の下水道整備は完了しており、大きな増加は見込めない状況である。

2. 老朽化の状況について

【管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況】
平成6～13年にかけて供用開始された事業であり、供用開始後22年が経過したところで、比較的の老朽化は進行しているため、管渠改善率は過去5年間0%である。現時点では適切な維持管理を行うことで施設の寿命化に努めながら、施設更新に向けて検討し、計画的な更新を実施していく。

全体総括

本事業は、平成6～13年にかけて供用開始し、現在整備率は100%となっている。
経営の健全性・効率性は、類似団体等と比較しても概ね良好な状況である。しかしながら、人口減少による使用料収入の減少や施設の老朽化に伴う更新経費の増といったマイナス要因が想定される。
今後は、平成29年4月に地方公営企業法を適用し、企業会計方式に移行することで、事業の計画性や透明性の確保、財政状況及び経営状況の透明化・明確化を図り、本年度策定した中長期的な経営の基本計画である「経営戦略」に基づき、計画的な事業運営を図る。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。